



### 半田教会伝道開始一二〇周年によせて

横山 良樹

二〇二四年で半田教会は伝道開始一二〇周年を迎えることが許されました。一九〇四年からこの半田の地で美普教会(メソジスト・プロテスタント教会)の伝道が始まりました。一〇〇周年を祝ったのが二〇〇四年のことです、この時は数字のきりもよく、教会の体力もあつたので幾つかのイベントを行いました。とくに会堂の継続使用が可能かをめぐって耐久耐震診断を行ったことがその後の二度の大改修(二〇〇五年・二〇一八年)につながりました。あれから二〇年・二二〇周年を想定して準備を考えましたが、やはり二〇二〇年から始まった世界的な新型コロナウイルスの猛威は半田教会においても大きく、それ以前と以後を直線では結べないほどの断層を生じさせたと思います。礼拝出席は二〇一九年度が六八名であつたのに対し、二三年度は五三名となりました。乱暴にまとめてしまえば、壮年期で迎えた一〇〇周年と新型コロナウィルスを経てリハビリ中に迎えた二二〇周年という感じです。

礼拝出席の人数にふれたのは半田教会が一九九〇年代に展開した知多南伝道とその成果である知多奥田キリスト教センターを支えるに

は恒常的に持ち出し覚悟の学生伝道の性格上、礼拝出席七〇名が財政的、人的に必要なと考えられたからでした。これは一九七〇年代の知多北部伝道の経験から、現地の信徒だけに委ねないこと、最低三家族が必要なことなどが教会の知見として与えられ、教会を挙げての応援態勢が始まったからです。

全体状況をみますと日本全体を覆う少子高齢化の波が押し寄せ、人数減による負の連鎖が顕在化しました。日本福祉大学社会福祉学部が地理的に募集の困難な美浜町から東海市への移転を決定したのも生き残りをかけた経営戦略です。

このように知多南伝道ひとつとっても開始当時と状況が大きく変化しました。「知多半島の伝道を推進する」という宣教基本方針第二項が今後どのように担われるかは、わたしたち皆の祈りの課題です。

キリスト教界もその存続を問われる事態に立ち至っています。ルーテル神学校はついに神学生募集を取り止める事態になりました。教団全体でも無牧や兼牧の教会が増え、今年、日進教会が解散したように、今後、教会や伝道所が閉じる事態も増えてゆくでしょう。社会全体が右肩上がりだった成長の時代は終わり、教会の本質を失わない形の新しい体制や組織の組み換えが必要とされています。

このようななかで半田教会は一二〇周年を迎えたわけですが、この数字にどういう意味があるかは考える必要がありそうです。一〇〇周年記念誌を編んだときも思ったことですが、半田教会には戦前の文書記録が現任陪餐会員名簿し

かありません。週報のたぐいが一切なく、半田市荒古の最初の講義所や、戦前に教会堂として使用されていた建物の写真もなく、往時をしのぶすべがありません。このあたりはブラックボックスであり、戦後、穂積圭吾・多美恵夫妻のお座敷教会で集会が再開されてからの文書記録と存命の教会員がいるために伝聞によって、わたしたちが確かめうるのは戦後の七九年ほどの期間なのです。そして戦後初の専任牧師として篠田潔牧師が招聘された一九五六年以降、地方教会のモデルともいえる半田教会の形成が始まります。信徒の墓地完成(六一年)、牧師館完成(六二年)、終町に会堂完成(六四年)、巽が丘伝道(七〇年代)、知多南伝道開始(八九年)、知多奥田キリスト教センター開設・複教職制開始(九一年)、横山両牧師招聘(九五年)と、篠田潔牧師が四二年、甕の水を移し替えるような丁寧な牧師交替期を経て横山両牧師となって一九九一年、そこで受け継いだ半田教会らしさを、もう一度共有してゆくことがわたしたちの今後にとって大切であると考えます。定点観測をすれば二二〇年ですが、終町に限っていえば一九六四年からなので六〇年、そうしますと二二〇周年を祝うことは半田の地に福音が移植されて二〇年間、神の言葉が語り続けられ、神の民を起こし続けてきたその御業をほめ称えることだと思いたります。今後については何が起きてても信仰による明確な対応のできる役員会の形成と、一人一人が神さまを愛し、教会生活をするうえで何が一番大切なことであるかを弁える訓練を重ねて、この地に神を賛美し、証しする群れを整えたいと願っています。

## 特集

## 伝道開始一二〇周年をむかえて

「石の柱」では、これまでも一〇年刻みで教会員有志のみなさまから節目の年を迎えての思い出を寄稿いただいてきました。今回のテーマは「感謝」です。

この一〇年わたしたちの世界は多事多難でした。アフガンや中東の紛争、ロシア中国の権威主義の台頭による迫害、戦争、そして新型コロナウイルス禍。日本は政治的経済的な地盤沈下が進み、自然災害が頻発。教勢の低下をうけ、教会でも委員会や会計執行についての試行錯誤が続きます。この一〇年、なにかいいことあったかな？しかしながら、私たちはこの世を支配するのは不条理ではなく神さまの恵みであると教えられてきました。その昔篠田潔牧師が、祈祷会で話すネタがない、とぼやく信徒に「一年生きてきて、感謝するところが一つもないってことはないでしょう」と言っていました。キリスト者としてまず自分の回りには恵みを見たいものです。ここにささやかではありますが、神さまへの感謝の証を集め、あらためて神さまに讃美を捧げたく願います。帯とサンダルの紐を締めなおし、新たな一〇年へ新たな神さまのご計画の現をみるために。

(榊原い)

## 賛美歌の会とハンドベル

天沼 康司

長野県伊那郡に陣馬形山じんばがたやまがあります。麓から登り、徐々に中央アルプスの残雪のある峰が見えてくるとワクワクするものです。頂上付近のキャンプ場から見える駒ヶ根市の町並みと中央アルプスの眺望は感動ものです。車で行けるとても便利なキャンプ場なので家族を連れて行ったことがあります。「見晴らしがよくて良いところだね」それだけです。感動が無いのです。汗を流して時間をかけて登る景色だからこそ感動があるのです。

以前、賛美歌の会は第一週と三週の火曜日、夕方七時半から実施していました。出席者は少なく馴染みの薄い賛美歌を練習する状態でした。二〇〇八年から誰も経験が無いハンドベルが導入されました。賛美歌練習の後にメンバーが揃い出す八時からの練習でした。

私は二〇〇三年に名古屋西教会から半田教会へ転会して二〇年を過ぎました。教会という所は神様によって支配されています。つまり、神様によって結果は最初から定められているのです。いつ来るのか分からない「その時」まで祈り精一杯、努力して行かなければならないのです。だから、私たちが求めるものとは神様の御業と教会員との交わりなのでしょうね。これからも思い出に残る経験を共に歩みましょう。天国にいる新美洋子姉に感謝します。

## 一二〇周年記念感謝

井戸 美代子

キリスト教とは無縁の土地柄で生まれ育った私は洋裁学校に行っていた時、シスターから頂くパンフレットに「汝の敵を愛せよ」とのイエス様の御言葉に接し、びっくりすると共に何のことかわからなかった。教会に連なるようになり少しずつ信仰のことがわかる様になった。夫の転勤で阿久比町に住むようになると一九六九年七月、半田教会の礼拝出席は一九七一年四月、長男の高校入学で半田教会の所在を知りほっとする教会があったと、やとと落ち着くことが出来ました。篠田先生の説教は優しく御言葉が少しずつ胸に響いて来ました。感謝の気持ちになりました。最初の御言葉は「重荷を負っている人は、私のもとに來なさい。休ませてあげよう」とても安らぎを与えられました。御言葉に導かれて少しずつ感謝の気持ち湧いてきました。婦人会の役員さんの指導で少しずつ教会にもなれて来ました。それでもすべてなじむまでには十〇年の歳月が必要でした。ありがとうございました。



## 恵みの祝福に感謝

榎本 弘子

七月十四日、半田教会での礼拝を最後に敬愛する戸田先生ご夫妻が「まきば」に転居。篠田先生ご夫婦が「まきば」に転居なさった時に味わった淋しさが蘇った。この淋しさの中で今は天の国に帰られた姉妹方を偲んだ。豊かな包容力の秀子夫人。参加者が少ない時「神が共におられる」と皆を励ました安井さん。川口さんは、いつの間にか皆を交わりの中に引き入れた。私たちが若婦人会と呼ばれていた頃、たくさんの先輩方は温かい交わりの中で育てて下さった。

今私は婦人会の諸行事、家庭集会の交わりの中で、共に神を賛美して祈りを合わせ、牧師の口を通して御言葉を頂いています。聖書に聞き続ける大切さを学びました。又、気力が萎えたりすると、共に祈って支えて下さいます。心強い仲間です。

三密を禁じたコロナ感染症過は、私に教会で共に礼拝を守る恵みが、どんなに大きいかを教えてくださいました。「神を愛する者たち、つまり、御計画に従って召された者たちには、万事が益となるように共に働く」この御言葉の真実に感謝しました。主に委ねて歩みたいと祈っています。

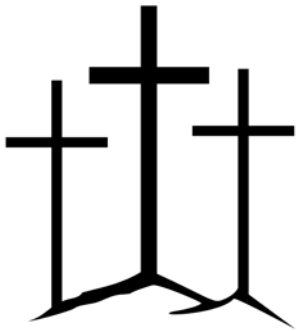
## バトンをつなぐ

大谷 京子

私が半田教会に通うようになって十九年経った。家を決めるために入った不動産屋の近くの看板を見かけ、住居よりも先に通う教会が決まった。転会して六年、ようやく主にある家族の一員になれてきたように感じている。

日曜礼拝を守ることしかできていないが、この群れの中にいられる幸いを噛みしめている。教会には生老病死がすべてあり、この世の出来事を神様のご支配の中で起こることとして受け止め、祈り続ける兄弟姉妹の背中から、多くのことを学んでいる。

功ないままに神の子とされている途方もない恵みを痛感する日々だ。欠けた器にもかかわらず、神様のご計画に基づいて日々歩ませてもらっている。ただひたすらに感謝。



## 恵みに生きる

岡本 正治

今年も七十九年前の八月十五日の事を思い出します。熱い一日でした。正午に家族がそろってラジオの前に集まり、戦争に負けたことを知らされたのでした。私たち一般の人たちは、戦争には負けない必ず勝つ、最後には神風が吹いて日本が勝つと小学校五年生の子供たちにまで教育されて信じていたのです。

多くの人達の犠牲により私たちは、真実を知ることが出来るようになったのでした。今少し早く一月、半年早く負けを認めていたならばと思われてなりません。

今自身のことを考えると、この戦争に負けて良かったと思っています。真実が明かになり、又、知ることが出来るようになったからです。私たちの今日はこの負戦によりあると考えています。聖書を手にすることが出来、そして教会に集うことが出来ることを考えると負けて良かったと思っています。

ローマの信徒への手紙八章二十八節を示されている今日です。

「神を愛する人たち、すなわち神のご計画にしたがって召された人たちのためには、すべてのことがともに働いて益となることを、私たちは知っています。」

## 「我が恵み 汝に足れり」

神村 雅子

昨年三月、主人が急性心筋梗塞で倒れ、カテーテル治療をしたものの充分でなく三週間後冠動脈バイパス術を受けました。コロナ流行の時に「自宅待機、何かあれば連絡します」との事。運転してすぐ駆け付けることが出来ない私は心配なので「近くにいる」と告げ九時〜十七時頃まで外来の待合室にいたり病院周りを歩いて過ごしました。スマホを握りしめ、読書や何をして落ち着かない中でふと倒れてからの出来事をノートにメモし始めました。次々と思いつくあつという間に三十項目位。不思議と気持ちが落ち着いてきました。

結婚後、電話帳で調べて礼拝を守るようになった半田教会。いつの間にか約三十五年。出産、子育て、上の息子の死、主人の会社倒産危機、両親の死、兄の心の病氣、息子の結婚、孫の誕生等々、嬉しい事、悲しい事、理不尽な事、なぜ自分の身にこういう事があるのか？神様の御心は？と問うしかなかった事……でもいつも牧師が寄り添って祈って下さった事、時になつたみ言葉が与えられた事、教会の友が祈り支えて下さった事、それらがあつて今があります。ずっと共にいて下さる神様を感じる事ができるのが何よりの感謝です。

子どもたちの原点  
そして私の原点

北原 稚香子

子ども達の原点は教会にあります。私は四人の子どもがおり、八千穂さんの紹介で子ども達は教会学校へ通うようになりました。教会学校の行事に沢山、参加しました。今の子ども達は横山家の猫に魅了され猫派です。幼稚園、小学生だった子ども達も今では高校生、大学生です。教会に助けられ守られ育てられて感謝しています。

私も子ども達が教会学校に行っていたから大人の礼拝に行くようになりました。時には家には帰りたくないとしぶり、困らせた事もありました。

クリスマス祝いで席につけない私を呼びにきてくれました。夜、ばあちゃんの小言が耐えられなくなつて教会に落ち着くまでいた事もありました。ある日、突然坊主頭の私も受け入れられました。そんな私をゆずり先生にはたくさん助けられました。今では寄りそつてとなりに座ってくれる人がいます。なんと心強い事か。今の私がいるのも毎週の礼拝があつてまた私も教会に育てられました。礼拝の中で讃美歌、説教と毎週聞くたび、元気が出るように変わりました。教会員の友達に感謝しています。そんな教会生活があつてこそ今の私があります。感謝しています。

## 感謝

木村 智恵子

夫婦二人の暮らしになつて二年が過ぎた。少しは時間の余裕が出来たが、気が付くと過去の後悔ばかりが浮かんでくる。自分の人生がボンコツ過ぎてがっかりしてしまう。

忙しい毎日で、子育ては嫌だった。今は夏、子どもが水の事故で亡くなったというニュースを聞くときやるせない気持ちになり、娘二人がよくぞ無事に成人するまで生き延びてくれたと思う。

二十代の頃、世の中の役に立つ仕事をしたと思つた。現実には食べていくのに必死で、最低賃金・単純作業のパートを続けるしかなかった。能力もバイタリティも持ち合わせていなかったのだ。それでも家族の状況が変わっていく中、いくつかの職場で健康が守られて働き続けることができた。たくさんの人と出会い、残念な思いも嬉しい経験もあつたおかげで今の私が作られている。

半田教会に転入して十六年が過ぎた。初めは会堂いっぱいの人と名前を覚えるなんて無理だと思つたくらいだったが、係に誘っていただき、婦人会まで関わるようになり、今では引つ込み思案な私でも安心して教会にいて良いと思えている。

弱い自分に心がくじけそうになる日々の連続でも、赦し見守つて下さるお方に出会えて悪くない人生かもしれないと思えてきた。

感謝

児島 千香子

半田教会に招かれてから数えきれないほど  
いただいている恵みと感謝。その一つ一つを  
数え上げると書ききれないほどです。

そこで、先ず一番感謝していることから申  
しますと「半田教会に招かれた」ことです。

半田教会が伝道開始八十周年を迎え、宣教  
実施目標にも「新しい伝道の拠点づくり」を  
掲げ、伝道に力を入れている頃のことです。

自宅西隣に半田教会員のご家族が引越  
してこられたことがきっかけとなり、夫と二人  
でペンテコステの礼拝に初めて半田教会を訪  
れました。帰宅後「あの教会なら安心だ」と  
いう夫の一言に力を得、教会生活が始まりま  
した。

それから約四十年、礼拝・祈祷会・婦人会・  
家庭集会などでみ言葉に支えられ、多くの信  
仰の先輩たちとの豊かな交わりを通していた  
だいた恵は、数えきれないほどありました。  
また共に祈り、支え合うことのできる繋がり  
に、何度も励まされました。

共にみ言葉に聴き、学び、辛苦を分かち合  
うことのできる教友が与えられ、それらのこ  
とを通して日々豊かな心持でいられたこと  
は、何物にも代えがたい恵みだったと思いま  
す。

そして、こうして「半田教会につながり続  
けることがゆるぎされている」ということが心  
から感謝できることだと思っています。

二〇一八年 感話から

榎原 いずみ

この十年に起こったことを思い出そうと過  
去の祈祷会感話の原稿を引つ張り出した。感  
話の話題はけっこう牽強付会けんきやうふかひなので読み返す  
のは気が重かったが、良樹牧師が「感話とは  
起こった出来事を神さまの恵みのご支配のな  
かで捉えなおすこと」だと言ったので、そう  
か「捉えなおす」のだ、と気を取り直した次第。

見直したら、教会的にも個人的にも事柄が  
多かったのが二〇一八年。ガンで半年闘病し  
た猫が死に、その後六年続くウオーキングを  
始め、イタリアに行き、会堂改修がなり、篠  
田牧師が亡くなった。当時役員会で将来計画  
基金の使途について話し合ったとき「献金し  
てくれる信徒が存命中に、献金をなんらかの  
形にしたい」と発言したことを覚えていた。  
その一年後にコロナ禍がはじまったのだから  
会堂改修はピッタリのタイミングであった。  
このことは本当に運がよかった(いやいや恵  
まれていた)なあ、と思う。ただ当時の感話  
原稿に「篠田先生に新会堂を『いいねえ』と  
言ってもらいたかった」とあり、そこは間に  
合わなかったのだ。誰でもピスガの峰からカ  
ナンの地を見下ろすモーセのように見ずにお  
わる幻があり、その幻を次の世代がみる、そ  
の繰り返しが教会なのかもしれない。

教会事務二十八年

榎原 春代

中学校の時、親友三人と初めて教会の門を  
くぐりました。友達が音楽好きであったこと、  
姉がいつとき教会に行っていて「さんびか」  
にあこがれていたと思います。私たちは穂積  
夫妻の教会が気に入り、親から「教会の子か  
ね」と呆れられるくらい教会べったりでした。  
いつごろからか穂積さんの会計のお手伝い  
みたいなこともしていました。教会イコール穂  
積夫妻イコール自分の生活、でした。教会で  
紹介された人と結婚し、家庭にはいり、仕事  
は退職。家庭と四人の子育てで忙しい日々が  
続きました。こどもの手が離れたころ、篠田  
先生から教会事務の手伝いを頼まれ、少しづ  
つするようになりました。だんだん事務の分  
量がふえいつの間にか「事務担当」になっ  
ていました。事務をすることで教会員の日曜以  
外の働きを知らされ励まされました。教会へ  
は雨の日も風の日も単車で通い、教会のみな  
さんに心配をかけたかもしれせん。  
こうして教会事務担当を三十八年も続ける  
ことができました。牧師さんはじめ教会のみ  
なさんご理解ご協力のおかげです。長いあ  
いだありがとうございます。

八十七歳 盛夏

## 迷える羊の師の門から

榎原 光意

高校卒業四月、進路もなく専業農家で母子家庭、八人姉の四男、写真館女店員が私の写真が紛失から話、知人を紹介され二学期から中学校の教壇へ(教室風景ご想像)。二浪後なんとか大学へ。翌年には英語単位不合格、進級できない事態。相談相手もなく闇の中、数年前に高校の英語の先生が一家で近くに転居されたことを知り、その門をたたきました。突然の訪問と申し出を杉浦先生は快く受け入れてくださりました。毎週二、三夜ご自宅に、ご家族八人の食卓を片付けての「私塾」でした。心配した母親が訪ねると先生は「謝礼は一切不要、感謝と思うなら教会へ」と言ったそうです。

その後杉浦先生と教会の門をくぐりました。穂積さん宅でした。初めての教会、先生の教会での姿、教会に集う人たちの私への接し方、すべてのが別世界でした。母親世代のひとたちが我が子のように接してくれたことは忘れません。わたしの生きる場は「教会」だといつとはなしに心の中に育っていました。杉浦先生に出会えたことで、自分の無力さが感謝に変えられました。若い日の記憶がよみがえりました。

感謝の卒寿。ありがとう。

## 福は外、福は内

榎原 有子

時の経つという事は、良いこと。一一〇周年から十年。その間会堂改修、墓地改修。まだコロナ禍とはいえエポックとなるであろう時を経験している。このコロナ時代は悪いことばかりではなく、個人的には生活習慣が整えられた。また、さらに内なることを振り返れば、数年前から婦人会の役を戴いた。申し訳ないが、婦人会には良い印象がなかった。義母の教会の用事に振り回された時代もあり(笑)仕事を休んでまで出られないと思ってもいた。時を経て、夫婦間の時間の取り合い(笑)も私が勝つようになっていく。婦人会の仕事は勝手がわからず迷惑をかけている。七月に初めて中部教区の婦人会研修会に出席した。大変恵み多い礼拝・集会だった。初めてなので、婦人会に対して?と思うことも多い。東地区の総会にしてもそうだが、大きな恵みを婦人だけが受けていて良いのか、というところ。商工会議所の女性会に対して、新会頭が、ジェンダー平等に対して女性だけの会?と問いを出された。答えは出している。婦人会は平日行われる。有職者は休みを取るしかない?コロナ禍の副産物?ズーム録画配信を中部教区富山大会で試みられている。恵みの分かち合いの方法はあるはず。時を振り返れば外からも内へも福なる恵みに満たされていた。

## 知多奥田キリスト教センター

坂下 愛

「石の柱」一二十周年おめでとうございませう。転会もせず礼拝に参加させてもらっている身で書くのもどうかと思いましたが、これも御心かと思ひ少し書かせてもらおうことにしました。

お題は「感謝」とのこと、私にとって一番は知多奥田キリスト教センターの開設です。多くの先輩方の祈りよって、特に日本福祉大学学生と地域のために設立されました。

「青春の日々こそ、お前の創造主に心を留めよ」(コレヘトの言葉十二の一)

少人数ですがあたたかい交わりのあるその場所は福祉大に通う学生にとつて、新しく神様に出会う場であり、信仰を継続する場として存在しています。ちなみに私のすぐうかがぶ奥田センターのイメーは田口さん家のバラが飾られ、木村さん、石原さん、榎原光意さんの笑顔がむかえてくれる、というものです。大学の变化もあり、地域の学生も減ってきていますが、これからも感謝しつつ奥田の夕礼拝に参加していきたいと思ひます。



## 感謝の思い

桜井 洋志

私は三年前から半田教会の礼拝に通うようになり、昨年十二月には洗礼を受けさせていただきました。わづか三年ではありませんが、この教会との関わりの中で、私は多くの感謝の気持ちを持っています。

まず、教会の皆さんの温かい歓迎と支えに感謝しています。受洗のきっかけは「死と向き合いたい」と思ったことですが、教会に通い始めたのはその少し前からでした。今思えば、なぜ教会に通うようになったのかはつきりとは覚えていません。しかし、新参者の私たち夫婦を温かく迎え入れていただいたおかげで、後日「死」を強く意識した時に「神様に委ねる」という考えが自然に湧きました。これは神様の導きだと感じています。

また、横山先生には非常に感謝しております。礼拝での説教のみならず、実家の宗派も知らないくらい宗教にうとい私に、妻とともに特別講義の時間を作っていただきました。まだキリスト教を理解できたわけではありませんが、神様を信じる、イエス様を信じる心が醸成されました。

このように半田教会を通じて私は信仰心を持ち、心の平安を得ることができました。これからも教会の一員として、感謝の心を持ち続け、信仰の道を歩んでいきたいと思います。

## 神の恵みと導きに感謝

桜井 弘美

二年ほど夫と共に半田教会に通い、昨年洗礼を受けました。この教会との出会いは、まさに神様に導かれたかのような出来事でした。牧師先生方、教会員の方々、夫、両親など様々な人々とのかわりを通じて、自然と心が神様そして教会へと向かいました。私にとっては、とても不思議な感覚でした。

その導きにより、今はとても心穏やかに平安日々を過ごしています。そんな日々を与えてくださった神様や、支えてくださった皆様に心から感謝しています。

今年、半田教会は二十周年を迎えます。教会での様々な方との交流や祈禱を通じて、他人のために祈ることについて学びました。

この歴史ある教会の一員として、感謝の気持ちを新たにし、他人を思う気持ちを大切に、これからも神の恵みと導きに感謝しつつ、信仰の道を歩んでいきます。



## 感謝

新海 美智子

半田教会で結婚式を挙げて頂いてから五十九年クリスマスチャンホームの新海家に不思議な神様のお導きしか思えない様な事から嫁ぎました。私は受洗していましたが、まだ受洗していなかった亡き夫(眞行)が穂積さんのお宅でのお座敷教会に出席していた頃からいつかは受洗したいと思っていたのですが、なかなか受洗に至らなかったのですが、いに決意し受洗致しましたことは亡き両親の祈りが聞かれたのでしよう。本当に感謝でした。

昨年私は片側顔面瘰癧びれいと言う頭の中の顔面神経に血管が触れていてそれを離す手術を致しました。生まれて初めての入院、手術で不安な思いになるかと思っていたのですが全てを神様の御手にお委ねして手術室に入りました。不思議なくらい不安な思いも無く手術台の上では神様にお祈りをしして讚美歌を心の中で歌っていました。手術も無事に終わり感謝でした。今年は眞行の姉、弟(秀行)が天に召され寂しくなってしまうましたが、いつの日か再開出来る事を楽しみにしてこれからの日々を全て神様の御手にお委ねし、感謝しながら過ごして行く事が出来ますように祈り続けて歩んで参りたいと思います。

## 主の導きを 八十一年の教会生活に感謝

柴川 久仁子

母の胎にいるときから今日迄、教会から離れる事なく生かされて来られたのは、偏に神の恩寵、御守りと感謝に耐えませんが、顧みるに多くの教会との出会いがありました。

幼児受洗した金城教会、小学生の頃の神戸甲南教会、中学生時代は京都北白川のお座敷教会、多感な青春を鍛えられた大森めぐみ教会十年、結婚前の二年間は南山教会で奉仕。

その後、遂に半田教会に辿り着いた。白山町の借家住まいで一歳の長男がいた頃、篠田牧師が訪ねて下さり、柴川と共に礼拝に出席する導きを得ました。個性豊かな柴川は、CS教師、役員等奉仕を享受しましたが、一九八六年突然、米国転任。家族五人はコネチカット州転居、長老教会に出席し「中高生だった長男、次男は信仰告白し、親子共教会員となった次第。言葉もよく分からない私と息子たちは温かい交わりに加えられ「信仰はひとつ」の確信を与えられた。幸い三年後帰国し赴任地の東京では、夫が学生時代に導かれた聖書キリスト教会に出席。二〇〇〇年に広島移住、七年後、終に半田の我家に戻って現在があります。嗚呼なんと多くの教会・牧師・信者の方々に巡り合い、信仰の恵みと励まし慰めをいただいたことか！感謝あるのみです。願わくば半田が最後の教会となり、憐れみによって最後の場とらんことを。

## 感謝

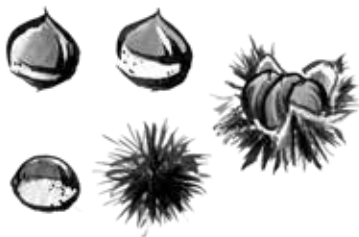
柴川 マリ子

半田教会在籍四十八年、受洗から二十六年、人生の半分以上、半田教会と共に歩んできた。そして二十周年の節目の時を、兄弟姉妹と共に祝うことが出来心から感謝申し上げます。二十代の頃、キリスト教の真理を学び、半田教会で聖徒とされて以来、礼拝を守り力強い説教に支えられて一週間の旅路が始まる。穏やかなひとり暮らしの日々。又、月一度の婦人会、家庭集会、木曜日の奥田聖研聖書に聞き、祈り合う時間を通して主に在る交わりの深さを、支えあう喜びをかみしめています。唯一の家庭集会(岡田集会)は転居に伴い、今季限りとなるがY姉が快諾され継続が可能となりました。感謝です。各々の集いに思いを寄せ参加される様にと祈ります。今、静かに人生を振り返ると、夫と共に信仰告白をし半田教会の一員として責任を担う約束をしました。果たして守ってきたのか……恥ずかしい限りですが、残り少ない人生を半田教会の捨石のひとつとして用いられます様にと心から願います。そして何よりも、多忙の中、心血を注いで説き証を下さる、横山良樹、ゆずり牧師の心と健康が守られ、任期を全う出来ます様に祈ります。

## 感謝

鈴木 聡杏

家族に感謝です。私は聡一郎さんときよさんの孫、聡彦さんと淳子さんの娘、として教会に通いました。残念ながら祖母には会ったことがありませんが、物心ついた頃から半田教会員の皆さんが私に嬉しそうに、そして懐かしむように二人の思い出話を度々してくださいました。私は当時身内を褒められるうれしささと誇りを感じていましたが、今ではそれは二人がどれだけ半田教会に奉仕してきたか神様が示してくださっていたのかなと感じます。私が十一歳のころに聡一郎さんが亡くなり、気づけば一緒に過ごしていかない時間の方が長くなってしまいました。私にも娘を授けられてると思います。祖父母の想いをつけている両親のように私もつながっていきたいです。





## 感謝

関 光徳

はじめて半田教会に来たのは小学生の時の教会学校ですが、ブランクの後、五十一歳で受洗をしました。あれから十二年が経ちました。早いものです。

今、私たちを取り巻く環境は年々、めまぐるしく変化しています。コロナも五類に変更されて一年になりますが、無毒化が進んだとはいえ高齢者には心配です。私は趣味で畑をやっていますが、こんなに暑いのは今まで経験したことがありません。環境の変化に少し怖くなります。

父親が亡くなって七年になりますが、入院や手術の繰り返しで大変な時に、牧師や兄弟姉妹のお祈りやアドバイスで何度も励まされました。母親の介護もいろいろ相談に乗って下さりデイサービスに週四日でお願いしています。とても楽になりました。

会社を始めて三十三年がたちますが、法改正や最近のデジタル化に対応するためのサポートをしています。最近のめまぐるしい状況の中、戦争や自然災害が原因で皆が苦勞しています。讚美歌に「世の戦いは、激しくて、主が味方なら恐れはない」主が共にいてくださいます。恐れるなどおっしゃられます。感謝です。毎週の礼拝のみ言葉や讚美歌に励まされて、礼拝に出席できることを心より感謝します。

## 神様のおはからい

竹内 織江

一九七〇年、私は半田教会へ転入しました。あれから五四年が経ちます。あの頃の事は今も走馬灯のように巡ります。もしかしたらここに居なかつたかも知れない私が今もここに居るのです。神様の永い御計画の中に入れていただいた事にとても感謝しています。

半田教会に転入した頃、私はまだ若く、母教会が恋しくてなかなか教会の雰囲気になれず、母事が出来ませんでした。年を重ね多くの先輩が何かとお心づかい下さり今の私がある事を深く感謝するものであります。神様は教会という個ではなく、人の多く集まる所にいて下さる事を知らされ心の平安をいただきました。またこの様な経験もさせていただきました。六十数年の時を経て大谷美鈴さんと再開出来た事です。本当にそんな事があるんですねと驚き感動をおぼえました。母教会の姉妹にお会い出来、一年

にも満たない日々を楽しく豊かな交わりの中で出来た事は、私の大切な思い出の一つになりました。半田教会に「おりちゃん」が居てくれたよかったですと幼い時の名前を言つて下さった事を忘れません。息子さんのお心づかいで最後の時、電話のむこうで振り絞る声で言つて下さった事、聞き取ることは出来ませんでした。私の方こそありがとうございますと思いました。私の方こそありがとうございますと思いました。御国へ送り

## 共に祈りあう

竹内 喜保

一九九四年十二月クリスマスに五十歳で半田教会に転会を許され三十年、私も記念の年を迎えました。この間礼拝、祈禱会、各種の行事等に参加させて頂き、その都度大きな喜びを得て、創立一〇〇年、一一〇年、一二〇年を共に迎えることができ感謝いたします。

その中で、受洗の時からなるべく祈禱会に出ようと願っていましたので半田でも出席しました。教会員による感話を主体にし、共に祈り合う祈禱会はとても励まされました。今までは、自分中心の祈りだった事が恥ずかしく思いました。神様に感謝し、信徒の友による教会、伝道所への祈り、教会の働きの祈り、兄弟姉妹の執り成しの祈り等、今は在天教会員の皆さん初め出席者の方々の祈りによって、自分も祈られている事を知りました。

この十年では、やはり会堂改修で、二〇一八年五月から約五か月間、住吉福祉文化会館での礼拝は、教会は建物ではなく、集まりみ言葉が示される所とは頭では分かっています。違和感があり、十月二十一日の記念礼拝は居場所が再び与えられた喜びを感謝しました。

次の周年記念には如何になつていっているのだろうかと考えます。十歳先輩には榊原光意さん岡本正治さんがおられ、お二人始め諸先輩の背中を見ながら、神様のお支えを頂いて歩んで行きたいと願っています。

## 教会につらなる幸いと恵み

竹内 治枝

今回「石の柱」記念号のお題が「感謝」と知りひと言お礼をとペンを執りました。

夫は三年前、膀胱がんの手術をして以来再発を繰り返し、加えてコロナ入院、硬膜下血腫の手術と続き、心身共にすっかり弱って要介護となり、立ち居、走行に障害が残りました。常々健康を自負し、自営業の仕事にも恵まれ自分の思い通りに生きてきた夫にとつて思いも寄らない病苦は受け入れ難いものでした。看取る私も平静を失い、祈ることさえできない日が続きました。

しかし、その間も教会から遠のく私を心に掛けて訪問やお手紙、メールやお電話など皆さんが代るがわるお祈りと励ましをもつて支えて下さったのです。感謝しかありません。そして、礼拝が守られた日には、牧師先生の生きた説教とみ言葉に与かり平安と新しく歩みだす力をいただきました。

夫は生来、頑なに宗教を否定しキリスト教も然りでした。そんな夫も神さまに祝福され救いのみ手の中にあることに思いを致し、その大きな愛と深い慈しみに感謝の念でいっぱいです。

坂のびる 先に教会 小六月  
熱き茶と 懐炉配られ 礼拝席  
看取して 祭囃子を 遠く聞く

## 神様の恵み

永井 花

半田教会に連ならせていただいて、六年目を過ごしています。私は、花木和子姉妹や村瀬明子姉妹に勧めていただいて、教会学校の教師になりました。感謝なことは、毎週子どもの礼拝に参加し、皆さんの分かり易いお話を聞けることです。また、自分もお話の当番の時、テキスト「成長」を読みながら準備をします。この過程で、聖書の理解が深められています。子どもの礼拝では、現在子どもも出席なしの日が多いです。自分のお祈りと働きの足りなさを思います。けれども、教会学校の教師の皆さんが優しく、教師として居座ってしまっている私をおゆるし下さい。教会学校に子どもたちを誘うこと、楽しい活動を準備することに自分の時間や力を使いたいです。

また、大人の礼拝では横山良樹牧師・ゆずり牧師のお説教を聞き、大切なことに気付かされます。お二人に、良く心を養っていただいております。

## 感謝

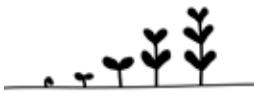
西田 つや子

私が半田教会に来る様になって、かなりの年月が立ちました。

きっかけは三浦綾子さんの「光のあるうちに」の本を読んで教会を訪ねた事です。篠田牧師さんとの出逢いに始まり……そして悲しい別れも経験し、この全ての事が私にとつては感謝でしかありません。半田教会に来てなければ教会の皆様とは会うことがなかったと思いますし、昔教会のバザーのお手伝いをしたり、お昼にやきそばなどを食べたり、夏には二人の娘も夏期学校(佐見)に連れて行って頂いたり、佐見での娘たちの写真を見るたびに、素敵な体験をさせてもらい、親のわたしにとつては感謝でしかありません。

そして、わたしはまだまだ教会で体験中です。毎回思うのは、教会の居こちが良いと言う事です。讚美歌(八十一)「主の食卓を囲み」が大好きで家に居る時も口ずさみます。長い年月毎回あたたく、日曜礼拝に受け入れて頂き感謝しています。これからも来たり来なかったりではありますが、自分のペースで日曜礼拝に来たいと思います。これからも宜しく願います。

皆様に沢山の  
神の祝福があります様に



## 花木丸大破沈没

花木 和子

半田教会創立二十周年記念文集に「感謝なこと」という内容で、教員全員が作文せよとお触れができました。寝床の中で感謝のことねえと自問していました。ら、四十代前半のことが脳裏に湧いてきました。四十代前半の私は、その頃大荒れの中学校から、小学校に転動したばかりでした。小学校の教員免許も無い上に経験もなく、五里霧中状態でした。加えて、それ以前から、夫と私は全くうまくいかず、破綻寸前でした。苦しい自分を知り、この苦難から何とか逃れたいと、「知多カウンセリング協議会？」に参加しました。そこに半田教会の大先輩のYさんやSさんがいて知り合いになりました。大荒れの中学校勤務の夫が先に精神を病み、私は苦境を勤務校の校長先生に相談しました。今思えば数々出会った校長先生の中で最も部下を大事に考えて下さる人でした。夫に精神科病院を紹介してくださり、意外にも彼は入院しました。私にもカウンセリングを受けれるよう土曜日の授業を免除し、病院に通えるように配慮してくださいました。病院長先生は個別に夫と私の主治医になつてくださり夫婦の関係を理解しながら治療にあたってくださいました。遠くにいた父親は心配して毎日手紙をくれ、きつと必死に祈ってくれていたと思います。そして近所のキリスト教会に行くと強く勧められていました。藁にもすがりたい私は、何故か半田教会の門をたたきました。初めて教会の入口に立

つと、YさんとSさんがいて大歓迎してくれました。礼拝後、帰り際に篠田夫人が、「花木さん、おうどん食べていかない？」と声をかけてくださり、食べてみると、その美味しいこと、温かいこと!! 篠田先生は、あのニコニコ顔で、近所のTさんを紹介して一緒に来るようにと勧められました。慣れない私は、Tさんを車に乗せるために教会を休めません。主治医の先生は半田教会に行くようになったと、報告すると、「それはいい、安心だ」と太鼓判を押してくださいました。篠田先生は、きつと深く考えてのことだと思いますが、教会の門をたたいて一年くらいで「そろそろ受洗しないか」と勧めてくださいました。神様を信じたのか、イエス様が何者かよく分かつてはいなかったけれども、背水の陣に立たされたような気がして、洗礼を受けました。もう、ここから逃げられないという心境でした。その時の篠田先生の第一声が、「これからがいいんですよ」でした。そういうことの積み重なる中で、夫は退院し、しばらく自宅療養しましたが、やがて家を出て、花木丸は沈没しました。子どもが三人いたので「私は死ねない」と覚悟出来ました。それからも、疾風怒涛のような生活は続きましたが、四十年過ぎて現在の生かされる私があります。あの大嵐に遇っているときの父の熱い祈りに応えて、神様は私の周りに多くの支えてくれる人を配置してくださりました。私は支えられて生かされている。感謝です。

## 教会のつながりに感謝

藤條 聡美

私は教会とのつながりを大切に思っています。小さいころから見守ってくださいました教会の方々に、心から感謝しています。教会はいつも私を温かく迎えてくれ、安心感を与えてくれました。また悩んでいるときには一緒に祈ってください、一人ではないと実感することができ、大きな助けとなりました。このように教会の方々に支えられ、神様が見守ってくださいるので、離れていてもがんばることが出来ます。これからも教会とのつながりを大切に、感謝の気持ちを持ち続けていきたいです。



## 感謝

藤條 淳子

恩寵無限。神様に愛された方たちの存在が半田教会の香りを放つ。両親の祈禱会の送迎をしてくださった安井姉。形見分けに頂いた着物で礼拝に行くとなつた安井姉を知る事が出来ました。厳しく教会生活を守られ叱咤激励することも、私の中では板山クリスマス、教会学校の校長先生の笑顔の記憶しかありません。笑顔といえば、奥田夏期学校の木村綾子姉。子どもたちの姿に目を細めてよく来たと迎えてくれました。お手伝いの方たちに美味しいおやつを用意してくださり、ほっとひと息できる時間でした。奥田夏休み宿題教室の先生方には感謝しかありません。今も働くママたちに懇願される内容でした。

大きな感謝は、二〇一〇年ゆずり牧師と行くことができた聖地旅行です。記憶に残ることは、シナイ山の寒さと暑さ、ラクダに揺られて登る楽しさとひたすら歩く下山、体調の為にシナイ山に登れず涙した仲間の熱い神への思い、聖書の示す場所で讚美し、ゆずり先生の解き明かしを聞くことで聖書が身近になりました。世界の平和を願うもう一度行きたいと思えます。喜代さんの願い。娘たちがキリスト教の学校に行くことができ音楽や絵画に説明することなく楽しめていることに感謝。

変化の半田教会で神様、良樹先生ゆずり先生と共に生きる今に感謝です。

## 感謝

ハンドベルと共に多くの方々に

育てて頂いた二十年

宮地 潤子

この二十年間は、ハンドベルと共に成長させて頂いた年月でした。息子の部活・親のお茶当番等卒業し、教会に通いだし二〇一〇年からベルの練習に参加させて頂きました。二〇一二年岡崎教会・奥田キリスト教センターの二十周年記念会・二〇一二年には金城学院大学アニランドルフ記念講堂での中部ハンドベルフェスティバル参加・奥田での音楽伝道集会・二〇一六年には碧南教会・蒲郡での演奏・二〇一八年新しいオルガンを迎えてのお茶の会とコンサート・この他にイースター・クリスマス・月に一度聖日礼拝の前奏等次から次へと演奏会、内心できるかしら？と心配したこともありましたが、メンバーの皆さんの若さと集中力で乗り切つて満足のいく演奏が多かつた様に思います。教会内では年長の方達のグループもあり、ほとんど欠席される方もなく熱心さには毎回頭が下がりが、学ばせて頂く事ばかりでした。山田紀子先生が指揮を引き継いで下さり第三日曜日の練習も定着し軌道にのつてきてとても良い雰囲気です。こちらからもこのベルの響きが、天の神様に届くようにメンバーの方達と想いを込めて演奏していきたくないと願っています。

## 十年前のバザー

村上 聡恵

結婚を機に半田を離れて十年になろうとしています。

年月のはやさに驚くと共に、この十年で半田教会でも大きく行事などが変わったと改めて感じました。

特にバザーは義母が毎年口にするので記憶が薄れません。義母を自分が育つた半田教会に初めて招待したきっかけがバザーでした。

おみやげに持ち帰った五平餅をとてても気に入った義母を誘つて、翌年には型にごはんを詰めるお手伝いをしたことは、とても楽しい思い出です。義母はこの時のお手伝いで、教会の人々の交流の温かみをよりよく感じられた、と話してくれました。

コロナによつて行事が非常に難しく、礼拝すら厳しかつた状況を乗り越えてきた今、改めて半田教会の交流の温かさに感謝しています。



### 「感謝する」生き方に変えられて

村瀬 明子

教会に通うようになって、不思議だなあと  
思ったことの一つに、「感謝する」という言  
葉がありました。私にとっては、耳慣れない  
言葉だったので、多分これは、教会用語な  
だと思っていました。礼拝の祈りの中で、祈  
禱会で、年配の方々が、「感謝します」と祈っ  
ておられるのをずっと聞いてきました。

今回、このお題をいただいて、はたと気づ  
きました。私は今、心から神さまに感謝して  
いる。いつ頃からそう思えるようになったの  
だろうかと。

自分の口からこの言葉が出るようになった  
のは、自分の罪深さに気づくようになったか  
らだと思えます。自分ではいいと思ってい  
ても相手はそう思っていないかった、自分の言葉  
で相手を傷つけていた、等等。後悔しても  
取り返せない過去がありました。

それなのに、生きている自分は、いったい  
何者なのか。そう思うと、神さまに赦されて、  
生かされていることを「感謝せずには」おれ  
なくなりました。私は、自分の力でどうにか  
できる生き方をしていけるのではなく、主イエ  
ス・キリストを信じることによって、平安と  
恵みに満ちた生き方に変えられました。  
このことを何よりも「感謝しています。」

### 感謝を顧みて

山田 紀子

大学を卒業して嫁ぐまでの一年間、異が丘  
集会でオルガン奉仕をした。私の技量でよく  
できたものだと思うが、集会で戸田夫妻と横  
山夫妻に大変お世話になった。ここでの学び  
がその後色々な試練に会おうとも教会から離  
れず今に至っていると感謝に堪えない。

東京から愛知に引越し、戸田安士先生の  
お陰で夫は常滑市民病院に就職できた。そし  
て開業に至る。開院式には菅原牧師と篠田牧  
師のお二人に司式祝福式をして頂き、キリス  
ト者であることを公にでき、感謝であった。

二十八年間の開業で夫は召され、その後十  
年間アレルギーのコンサルをし、今、年金生  
活者になった。市民活動とコース、そして、  
何より教会生活を当たり前のように、健康を  
守られ出来ていることは、感謝である。

来年には後期高齢者になる。あちこち故障  
もするけれど、主とともに歩んでいきたい。

今年十月から、異が丘集會が再開する。  
岡田を引き継ぎ、阿久比と半年ずつ担う。  
五十三年を経て、嬉しいことだ。両親宅で暫  
く異が丘集會を隔月で行い、召される前の穏  
やかな時が与えられ、稀有なひと時であった。  
良樹牧師のよく通る声で父も喜んでいた。両親  
ほど長生きできるかどうかはわからないが、新  
しく墓地もできたことだし、安心して余生を  
過ごしたい。

### 俳句

安野 美根子

白寿への 階ふみしめる 初御空

初花へ 開くホテルの窓 窓 窓

高階に 園の初花 ひとりじめ

初花や 且つてわが家の ありし森

春寒き 園の遊具は 大人達

燕子花 礼拝堂の 華やげる

風炉点前 客をもてなす 幼き日

地車を 引きこむ里の 広き庭

熟睡す 老人ホームの 短夜を

差し入れは 畳おもての 盆草履



## 俳句

久野 みさき

吾すでに 許されて在り

蝉時雨せみしぐれ

みいにゃん

吉田 香代子

証書受く 子等の瞳や 卒園式

去る弟子に 贈るハンカチ 春兆す

吾が主治医 終日診るや 春の星

今年また 甥から届く カーネーション

亡き母の 手紙の束や 沙羅の花

「父の日」や 詫びる気持ちの 墓に水

距離おきし 妹からの お節かな

病む吾に メール見舞や 冬の星

## 三十年という贈り物

横山 ゆずり

二〇二四年はわたしたちが半田教会に招聘されて三十年目にあたります。引越しの多かった私にとって一つの教会に三十年ということは特別で、北海道六年、大阪七年、北九州三年、大分三年、京都七年、埼玉一年、東京六年とそれぞれの土地での教会生活があったからです。残念なことに今現在、北海道と大阪、そして大分の教会はすでに無く、つながりも切れています。それに対して半田での三十年は人生の約半分にあたり、これまで半田教会という土台や窓口を通して多くの人と出会い、さまざまな出来事を経験させていただきました。それは半田教会から地区のこと、教区のこと、そして全国のことを見る、考えるという一つの視座が与えられたことでもありました。

ときおり、好みの土地は？と聞かれることがあります。どの土地も魅力的です。雄大な大自然が好みであれば北海道、歴史や観光地という視点から見れば京都や大阪かもしれませんが、九州の素朴さも捨てがたいです。ただ、半田で教会生活を三十年許されたということでは、これまで過ごしてきたどの土地にもまして得難い恵みです。三十年かけて多くの兄弟姉妹との出会いと交わりがあるからです。それらはみな与えられたもの、祝福です。だから、主に在って心から感謝いたします。

## ◇ 編集後記 ◇

篠田 顕

半田教会の伝道二十周年を記念して、今回は皆さんにそれぞれ思うところを自由に書いて頂いた。編集後記を書くに当たり、改めて一〇〇周年記念誌に一通り目を通してみた。戦後の混乱時期には、一時半田教会は散会したものと教団に思われていた時期があったのだが、そもそもその時期は、教会の公式文書というものも殆ど残っておらず、残念ではあるがやむを得なかったと思わざるを得ない。さて私の父篠田潔は、昭和三十一年四月に伝道師として半田教会へ赴任している。それ以来私自身は教会へ行く事が、普通の生活となった。しかしそれは私が幼少期の事であったので、教会の財政等という事には全く関知せず、当時の役員之苦労は、並々ならぬものがあつた事が記念誌からは見て取れる。しかし本当に不思議だと感じた事は、半田教会は会堂を建てるより先に墓地を造つたという事である。まだ牧師館も会堂もない時に、先に墓地を造る等と言う事があるのか？紐解いて行けば様々な理由でこのようになった事が解るのであるが、その様な紆余曲折を経て、今日の半田教会がある。振り返って見れば、半田教会の歴史は、正に知多半島に於ける開拓伝道の歴史といつても良いと改めて思う。

今回は「感謝」というテーマで皆さまに投稿をお願いしたが、私にとつてはこの地に教会がある事自体が、只々「感謝」である。